



吸音材を用いて設定した落ち着ける居場所



吸音・遮音の効果の体験ワーク



模型パーツをつかった居場所づくりワーク

保育室や教室など、こども達が日常を過ごす空間は、住宅とは異なる環境刺激に溢れており、刺激に敏感な子どもは居づらさを感じることがあります。なかには、騒がしさやまぶしさなどの環境刺激が大きな負荷になり、室内にとどまることが難しい場合や疲労をため込んでしまう場合もあります。インクルーシブな生活・学習環境では特に、活動から離れて落ち着いて過ごせる居場所を設えること、そこに音や光の“環境調整”の視点を取り入れることが、こどもたちの助けになります。

今回のワークショップは、建築環境の視点からこども施設を見直し、落ち着く居場所の整え方を考える機会を提供します。音環境については、これまで保育室や教室で活用された音環境調整用の補助具を体験いただきながら、吸音・遮音といった音のコントロール方法について理解を深めるワークを行います。光環境については、光量や光色を調整できる照明器具やシェード、光の波長分布や色の特性を見ることができる簡易分光器などを使って、明るさやまぶしさと光の特性について理解を深めます。また、日常の環境を振り返り、体験していただいた環境調整を取り入れてどのような居場所づくりができるか、グループワークを通じて考えます。

保育室や教室の環境づくりに“音”や“光”の視点を取り入れてみたいという皆さま、さまざまなデモや体験ワークをご準備して、ご参加をお待ちしております。

なお、ワークショップで体験いただく補助具や器具、関連資料などは、ワークショップ実施時以外にもご覧いただけます。時間が合わずワークショップにご参加いただけない方も、お気軽にお立ち寄りください。

◆開催日時 5月31日(土) 14:00～15:30

6月1日(日) 13:30～15:00

◆場 所 永国寺キャンパス 教育研究棟 A107

◆対 象 者 こども施設の環境調整に関心のある
教員・保育者・建築関係者向け

◆定 員 各回 20 名程度(事前申込)

◆参 加 費 無料

上野 佳奈子 (Kanakako UENO)

明治大学理工学部建築学科 教授

専門は建築音響学。特別な支援が必要なこどものための環境づくりとして、身近な材料でつくる音環境調整用補助具の提案、聴覚の多様性に意識を向ける活動などに取り組んでいます。

野口 紗生 (Saki NOGUCHI)

浜松学院大学地域子ども教育学科講師。一般社団法人こどものための音環境デザイン理事。

研究テーマは「子どもと音環境」。音体験ワークショップなど様々な立場の方々と共に環境づくりに取り組むアウトリーチ活動にも力を入れています。

吉澤 望 (Nozomu YOSHIZAWA)

東京理科大学創域理工学部建築学科 教授

専門は建築光環境・照明環境。光がストレスや不快感に与える影響に関する研究などを通して、人に優しい光環境の実現に向けた検討を進めています。